

三三四三番

娘子をとめらが 麻笥まけに垂たれたる 続麻うみをなす 長門ながとの浦うら
 に 朝あさなぎに 満みち来る潮しほの 夕ゆふなぎに 寄よせ来る
 波なみの その潮しほの いやますますに その波なみの い
 やしくしくに 我わぎも妹子こに 恋こひつつ来くれば 阿胡あこ
 の海うみの 荒磯ありその上うへに 浜菜はまなつ摘つむ 海人あま娘子をとめらが
 うながせる 領巾ひれも照てるがに 手てに巻まける 玉たまも
 ゆららに 白しろたへの 袖そで振ふる見みえつ 相あひ思おもふらしも

反歌はんか

三三四四番

阿胡あこの海うみの 荒磯ありその上うへの さざれ波なみ 我あが恋こふら
 くは 止やむ時ときもなし